

明治十年着信紙

電信 掛 回	着局			發局			官報
	午後一時三十分	十月四日	外務省	第四百九十九号	十月四日	横濱局	
至							
外務省							
中							
自							
神奈川縣							
サクミツカゴヤジシヨジ ヨリヲナジクゴゴジウニジ コデコレラビヤウニカカリ シスルモノジウゴミンナリ							

十年十月四日



子中...  
 明...  
 刺...  
 明...

外務省

病列初病患...

急患

死亡

現患...

東京  
警視  
本署

Handwritten vertical text on the right margin.

明治十年着信紙

電信掛 目	着局		發局		報 至
	十月五日	外務省	十月五日	櫻原局	
午後五時四五分		第百六十号	字數四十五字		自 神奈川縣
<p>サク。ヨツカ。ゴゼシシヨジヨリ。        ナアジク。ゴゴジウニジマテ。コレ        うビヤウニ。カカリ。シスルモノ。        クニシナリ</p>					

ナニナリ

3-2572

0188

性天田十...

如石集

陸軍冬編の事抄物集の事  
此の書名は冬編の事抄物集の事  
合編の凱旋兵隊虎引集編者  
海軍編の事抄物集の事  
報編内之記載有之を以て之を以て  
此の抄集、起る有し其凡そは海軍  
度且の刊行也秋冬、其抄物  
抄物集の事抄物集の事抄物集の事  
抄物集の事抄物集の事抄物集の事

十一年十一月



騰寫濟

校了

乙第九十号

府 縣

別紙之通り開港場アル地方官工相達候條沿海諸港  
ニ於テ内國軍艦并ニ兵員乗組ノ船舶入港ノ節ハ右  
ニ照準處分可致爲心得此旨相達候事

明治十年十月六日

内務卿大久保利通

外務省

別紙

今般虎列刺病流行ニ際シ内國郵船商船等出入港取  
締ハ當省本年乙第七拾九號ニ照準其縣限處分可致  
ハ勿論ノ處外國船并ニ居留地ノ儀ハ右達豫防法心  
得殊ニ第六條以上ノ旨趣ヲ以テ各領事及盤官ニ内  
國軍艦并ニ兵員乗組ノ船舶ハ陸海軍盤官隊長船長  
ニ遂悞議不都合無之様精々注意可致尤差支ノ廉ハ  
其都度事實ヲ詳記可伺出此旨相達候事

明治十年十月四日

内務卿大久保利通

外務省

紙信着年十治明

電信掛 周用	局 十月六日 午後五時廿分	着 外務省 第百六十一号	局 午前五時五分 字數四十一字	發 第一二八号 横濱局	官報 至
-----------	---------------------	--------------------	-----------------------	-------------------	---------

外務省

神奈川縣

サク イツカ コゼシ シヨジヨリ  
 ナジクゴゴジウニジマデコレラ  
 ビヤウニカカリ シスルモノニジ  
 ウイキニシナリ

十一年十月六日

紙達送年

技術 柘植	局 十月七日	着 第百二十八号	局 十月七 午後十時十分	發 第百一十一号	明 報
----------	-----------	-------------	--------------------	-------------	--------

外務省

神奈川縣

サク ムイカゴゼン  
 シヨリ。ラナジク。コ  
 ニ。マ。ジ。コ。レ。ラ  
 カ。カ。リ。シ。ス。ル。モ。ノ。ニ。ジ  
 イ。キ。ニ。シ。ナ。リ

十一年十月六日

ナキナキナキ

五月廿七日  
本府下  
コシラニ病感深并  
たしむる余世段及  
也

東京  
本署  
警視

多子日記

ナリナリ

一  
コシラニ病感深并  
也

合  
三十一人  
及  
三十一人  
及  
三十一人



紙信着年十治明

電信掛 岡田	局 着		局 發		官報 第百五十四号
	十月八日	外務省	午前十一時五分	横濱局	
		至		外務省	
		自		神奈川縣	
<p>ノシキニレナリ</p> <p>シラビヤウニカカリニスルモ</p> <p>ヲナジクゴゴジウニジマデフ</p> <p>サクナヌカゴゼンシヨジヨリ</p>					

ナシキニレナリ

紙信着年十治明

電信掛 岡田	局 着		局 發		官報 第百十号
	十月九日	外務省	午後三時十分	横濱局	
		至		外務省	
		自		神奈川縣	
<p>ルモ、シウシキニレナリ</p> <p>コレラビヤウニカカリニス</p> <p>虎ノ前、カカリニス</p> <p>ヲナジクゴゴジウニジマデ</p> <p>サクナヌカゴゼンシヨジヨリ</p>					

ナシキニレナリ



騰寫濟

<p>○</p>	<p>全知</p>	<p>上列</p>	<p>外務省</p>	<p>十月九日</p>	<p>外務省</p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>	<p></p>
----------	-----------	-----------	------------	-------------	------------	---------	---------	---------	---------

3-2572

0 195

類輯濟

補

命別刺者患者一人  
多日多病を以て  
死す此を因りて  
死す

明治十一年十月五日  
外務省

外務省

明治十一年十月五日午後十二時

死者一人 六十人

外務省

死亡 六十人

内 死亡 七十人

内 死亡 四十五人

明治十一年十月五日

寫濟

拉丹百...  
席列刺病...  
...  
...  
...

明治三十年十月九日

...

外務省

...

初發十月八日午後十二時迄

惣患者人負六百三拾人

内  
全治 或百拾七人  
治療中 百四拾五人  
死亡 或百六拾八人

神奈川県



今日始て取付之奉、者、因て早速其旨回達候事、  
取合置、奉、以候  
此具申上

十年 九月 二十六

領事 福 徳 丸 外

外務大輔 篠 島 高 行 殿

在厦門日本領事館

電信文

perform at

東京外務省

領事官

子

子

口々に始て取入る事、有し因て早速其旨回達候事、  
合意候事、以候  
其由也

十一年 三月六日 領事 福元 九郎 外

外務大輔 篠島 高行 殿

在厦門日本領事館

電信文

Inform all と記し候に此  
京に役銀主他並所迄ノ事  
銀中身院領事館持歸  
事との事方指上御事候事  
中書

別紙

十年九月十九日 厦門領事館

Foreign Office  
Tokyo

Cholera has gone already, but Eschschow.  
Reported by letter of 29 Septimo.  
Fukushima

在厦門日本領事館



明治十年着信紙

電信掛 岡田	着局		發局		官報
	十月十日	外務省	十月十日	横濱局	
午後一時	分	第百三十八号	字數四十八字	午後三時五分	第百四十八号
サクコノカゴゼシモヨジ ヨリチナシクゴゴジウニジ コデコシラビヤウニカカリ シスんモノジウクニレナリ					至
					外務省 日印
					自
					神奈川縣

明治十年十月十日

朱

華曆五月十七日... 此書下... 勢... 上... 身... 加... 月... 此... 也

丁未年... 某書... 某書... 某書



外務省... 某書



○**系**の<sup>○</sup>の<sup>○</sup>の<sup>○</sup>の<sup>○</sup>

本月九日ヨリ十日迄 東京府の<sup>○</sup>に於て<sup>○</sup>稀到物病感  
染等 死亡し 各郡に<sup>○</sup>に及ぶ等 此<sup>○</sup>及<sup>○</sup>に<sup>○</sup>也

明治三十四年十月廿七日 東京府<sup>○</sup>市<sup>○</sup>の<sup>○</sup>警<sup>○</sup>視<sup>○</sup>  
本署

外務書記官

印中

患者<sup>○</sup>の<sup>○</sup>数<sup>○</sup>は<sup>○</sup>三<sup>○</sup>十<sup>○</sup>四<sup>○</sup>人

内

死亡 十六人

現在患者 十六人

警視  
東京府

朱

十月廿七日 電

明治十年着信紙

電信掛 岡田	着局		發局		至 報
	十月五日	外務省	十月五日	第百六十九号	
午後三時五分				字數 四千字	
<p>至 外務省 申へ</p> <p>自 神楽町</p> <p>サクジウイチニチゴゼンシ ヨジヨリチナジクゴゴジク ニジマデコシラビヤウニカカ リシヌンモノジウクニシナ リ</p>					

明治十年着信紙

電信掛 岡田	着局		發局		至 報
	十月五日	外務省	十月五日	第百六十八号	
午後三時五分				字數 四七字	
<p>至 外務省 申へ</p> <p>自 神楽町</p> <p>サクトウカゴゼンシヨジヨリ チナジクゴゴシウニジマデコシラ ビヤウニカカリシスルモノシウゴ ニシナリ</p>					

明治十年着信紙

電信掛 岡田	着局			發局			官報 第299号
	十月三日	外務省	第 号	十月三日	務院局	第 号	
午前五時五分			字數 四八字	午前五時五分			
至				外務省			
				日中			
自				神宮寺			
				カクジウニチ ゴセシヨジ ヨリヲナジク ゴゴジウニジ コデア コレラビヤウニ カカリ ニスんモノ シチニナリ			

カクジウニチ

3-2572

0206

五ノ第百号

本月十日ヨリ十二日一テ東京府下ニ於テ掃部町  
感深并全癒死亡ノ多敷為リ  
乃々海内也  
明治十年 十月廿二日 東京録視本署

外務書記官

以中

患者共々四十二人

寫濟

騰寫濟

全癒 あり

死亡 沙路あり

現七名 十三人

其系二之るや又事多きなり  
恒年上考山麓の増養云

檄 島田副司  
吉平少輔

スガキヤク

東台衆國ノエツキ、ウヰル氏ノ如兒昨々同氏ノ  
恒年築地ニ於テ病列刺病ノ為ニ致死者多ク  
テ、古瓦仲西進 押率ノ為ニ緊要ノ事多ク上  
賜ニ於テ外國人抱疾又ニ病列刺ノ弊ヲ免  
有ル者ノ為ニ再設スルニ其地ニ押率ノ  
裁法科テ之ニ度相願ルハ故ヨリ多ク其裁具

吉原(印)公使使

与京子方百本吉原 十月十三日 山ヨシエー、ウシハム

外務知事(印)字則

閣下

外務省

原書横文  
目録付了

禾

明治十一年送達紙

技術	局	着	局	發	報	通	ル	ス
好成	十月十日	第	第	第	第	心	モ	ベ
	日	局	字	日	局	得	ハ	テ
		號	號	日	號	ベ	通	電
				日		キ	信	信
						事	規	ノ
						ノ	則	出
							ル	届

サ  
ク  
シ  
ウ  
サ  
ニ  
ム  
ゴ  
ゼ  
ン  
シ  
ヨ  
シ  
ヨ  
リ  
ヲ  
ナ  
シ  
ク  
シ  
ウ  
ニ  
シ  
マ  
テ  
コ  
レ  
ラ  
ズ  
ビ  
ヤ  
ウ  
ニ  
カ  
カ  
リ  
シ  
ス  
ル  
モ  
ノ  
ク  
ニ  
シ  
ナ  
リ

外務省  
神奈川

十月十日



東洋文庫

本朝の事... 東洋文庫蔵

東京  
本署

外務省

抄録

全巻 三ノ  
記七 二ノ  
現在 五ノ

千八百七十七年十月十五日  
自英漢理毛至寺島卿  
大虎列刺病豫防法施行  
為築地内衛生掛選  
意定義出別紙ナシ

3-2572

0211

with the Board.

It only remains for me  
therefore to convey to Your  
Excellency my appreciation  
of the promptness and good  
will shown by the Chiji in  
making the arrangements  
above referred to, and to  
express the hope that the  
offices, deputed by him,  
and the Board of Health will  
heartily cooperate in  
carrying out a work in  
the successful performance  
of which, Japanese and  
foreigners

Foreigners are alike interested.

I avail myself of this  
opportunity to renew to Your  
Excellency the assurance of  
my distinguished consideration.

Aug. 17. Monsey

necessity of an inspection of  
all compounds in the district  
of Tsukiji.

At the same time, Mr  
Wilkinson, Her Majesty's Vice  
Consul, has reported to me  
that on Saturday forenoon,  
before the appointment of the  
Board of Health he conferred  
with the Chiji of the Tokio Fu  
on the subject of the outbreak  
of Cholera, and that the  
Chiji promptly met his  
representations with a  
proposal

proposal to take measures which  
as reported to me by Mr Wilkinson  
seem well calculated to prevent  
the spread of the disease, and  
also to secure medical  
attendance for any persons  
who may be attacked. Mr  
Wilkinson has also reported  
to me that, having been informed  
of the appointment of the  
Board of Health, <sup>he</sup> took steps  
this morning to place the  
officers deputed by the Chiji  
for carrying out these  
arrangements in communication  
with

British Legation

Yedo

October 15. 1877

Your Excellency

Mr Bingham has addressed  
to me, in the absence of Sir Harry  
Parker, a letter in which he  
informs me of the appointment  
of a Board of Health among the  
residents of Tsukiji for the  
purpose of taking measures  
to stay the further progress of  
Cholera, and refers to the

His Excellency  
Terashima Munenori

Necessity

29

原書横文  
目録付了

2  
寺島則

中  
及  
名

島田流知符

以書報得はるる陳き原日スルハリパークス氏候  
不在中一なビンハム氏より一物者、宛テ此節集地  
在る人ニテ夏列刺函蔓延ヲ預防スル方法施以  
此等ノ衛生掛ヲ推定被テノ趣且右ニテハ集地  
口何レノ接内モ恙ク検査ニ事緊要ノ旨云々  
有リ且又我英國到領事ウキルキンソン氏よりモ南出  
於ニ右衛生掛未タ選定セサル去ル土曜日ノ午前  
議場蔓延ノ事分同氏より東京府知事  
及高橋氏よりモ早ニ選定ナリ之ニ急ニ付極速  
ナル一キ預防ノ方法且患者アレハ醫師ニ由ル候

外務省

又見込テ述ラレテ中ノ後ウキルキンソン氏ニ於テハ  
前条衛生掛出先ニ極速ニ東京府知事  
より此等委任ノ官吏ハ右衛生掛ノ人ト推選  
上ニ急ニ付極速ニ選定ナリ之ニ急ニ付極速  
外右様東京府知事ニ於テハ急速ニ選定ナリ之ニ  
亦本並般誠ニ歎賞ニ至ル事此上ニ右東京府  
委員ト衛生掛トニテ莫実懐心同カレテ固ヨリ  
内外人拘ク關係ノ多クハ精々勉勵シテ其実効  
ヲ奏セラレ被極一祈新ニ此般中選定如所敬具  
一千八百七十七年十月十日 オゴマチユスエツチ、モンセイ

寺島宗則閣下

庚午七月十三日

輔

局局

十の千の

印

同少監記取

の

の

の

の

の

の

の

の

の

の

騰



外務省

虎列刺病預病法施行之儀ニ付東京築地居留ノ我等外国人一同本日午後集會評議ニ及ヒ衛生事務ノ一局ヲ取該シ其局ニ於テ該病ノ居留地内ニ蔓延セサル様預防ノ良法取調ヘ施行候事必要之儀ト一決則左ノ人ニテ右委員ニ選任致シ候

築地八番地

醫學博士

ハリー、ワラルト

同 月二十八番地

同 ドブリニ、ドニツツ

外務省

米国公使館

デイ、ドブリニ、ステウニス

築地七番地

ケチテニセ、エムバチエルドル

同 月四十一番地

ケチテニセ、ハルグメイエル

同 番地

セ、ウインクセル

同 月三十三番地

セ、クラテアント

同 番地

傳教師

ジョルダ、コナラン

同 十番地

セ、ムス、エル、アムルミン

就テハ同局之事業能ク行届セシムル尚當地在通之各国公使領事ノ助力相願ヒ通常青線ト相唱ヘ候経界内即子居留地ノミナラス築地一圓諸人ノ捕内人家其他検査差支ナキノ可ク得度



此段申立方之支拙者委任ヲ受候ニ付閣下ヨリ  
日本官文へ所照會且我國人ハモ所通達我等ニ  
此季能ク得其實功候様宜ニク所助力被下度一  
同及所依頼候敬具

築地小田原町十番地

衛生局書記

千八百七十七年十月十三日

ゼームス、エル、アメルマン

米国公使

シヨニ、エ、ビニハム閣下

外務省

紙信着年十治明

電信掛 岡田	局 着		局 發		官報 第九十三号 移原局
	十月十六日 午後三時五分	外務省 第百七十四号	十月十六日 午後三時五分	字數四十七字	
至					
外務省 四申					
自					
神奈川縣					
サク ジウゴニチ ゴゼレシヨ ジヨリ ナシク ゴゴジウ ニジマテ コレラビヤウニカカ リ スルモノ クニナリ					

ナリナリ

紙信着年十治明

電信掛 岡田	局 着		局 發		官報 第百廿六号 移原局
	十月十五日 午後一時五分	外務省 第百廿三号	十月十五日 午後三時五分	字數四十字	
至					
外務省 四申					
自					
神奈川縣					
サク ジウヨツカ ゴゼレ シヨジヨリ ナシク ゴゴ ジウニチ マデ コレラビヤウ ニカカリ スルモノ ジウ シチニナリ					

ナリナリ

明治十年着信紙

電信 掛 岡田	着局		発局		官報
	十月十七日	外務省	十月十七日	横濱局	
午後三時五分		第百七十五号	字数 五十字		第百四十二号
至			外務省		
自			神余川縣		
<p>サクジウロクニチゴゼンシヨジ  ヨリチナジクゴゴジウニシマ  デコレラビヤウニカカリシスル  モノニジウニシナリ</p>					

ナ  
キ



虎の刺病患者惣數六十九人

全癒

貳人

死亡

三拾人

現在患者

三拾人

内外國人共人

事出分百二十

高麗地船内海軍海軍行方後  
傳際憲者之有無長崎在動也  
因の位は同族者有る所紙之通受  
報之以便出法二付此有不能致及  
通也

山本海軍海軍中秘史

明治十年十月十日

船務書記

海軍省

中野の海軍少将

池田海軍少将

高橋氏系祖より若くは二十一日後  
憲法制定より中野少将は此の所  
任也

十年十月十七日午後一時二十分表  
表着

海軍省

丁  
卯  
年

江  
輔

本  
局  
書

原

換  
第  
百  
拾  
四  
号

如  
國  
使  
館  
列  
刺  
病  
患  
者  
表  
送  
達

去  
ル  
九  
月  
廿  
四  
ヨリ  
本  
月  
十  
日  
迄  
南  
港  
店  
留  
込  
國

及  
ヒ  
本  
國  
在  
江  
國  
一  
月  
九  
日  
列  
刺  
病  
患  
者  
一  
者  
之  
身  
數  
報  
告  
書  
別  
封  
封  
文  
之  
通  
込  
國

者  
之  
身  
數  
報  
告  
書  
別  
封  
封  
文  
之  
通  
込  
國



31

寫 濟

檢第百拾四號

外國船員を初為患を表達せ

去ん九月廿四日日本は暹羅香港長崎英國人  
正にお國へ歸す國へる船員を初為患を權する  
多る船長は書るるの語ふと自國  
領事 子母屋の  
記す此の事

明治三十二年十一月の神奈川縣横須賀村



おつりて奉り出さる

神奈川縣

3-2572

0226

32

別紙

在神言川

千八百七十七年十月十二日

以書簡致洛陣候然者本港居住外國人及外國人雇日本人之九月廿四日本月十日迄之虎列刺症ヲ病ニタレ者之負數ヲ表スル報告書二葉封込及候陸軍

各國領事署頭

シイ、ブニワルド

神奈川縣權令

野村鴻之助

神奈川縣

別紙

九月十四日カラフトニ係列刺症ヲ病ヨカヌ 死亡 英國人	同日六日埋地ニ於テ病全快 瑞西人	同日居ヨ地ニ於テ病全快 英國人	同日七日埋地ニ於テ病全快 日耳曼人	同日八日居ヨ地ニ於テ病ヨカヌ死亡 英國人	十月一日居ヨ地ニ於テ病ヨカヌ死亡 英國人	同日三日山ヨテ病全快 英國人	同日七日埋地ニ於テ病全快 英國人	同日居ヨ地ニ於テ病ヨカヌ死亡 英國人	同日十日山ヨテ病全快 瑞西人	通計 姓名	内 全快 四名 死亡 四名 治療中 二名	健康保母局書記官 スチニアント、エルドソッピ	記名
-------------------------------	---------------------	--------------------	----------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------	---------------------	-----------------------	-------------------	-------	-------------------------------	---------------------------	----

神奈川縣

別紙

外國人雇日本人

九月二十日居る地を考へ病を快

一名

同日二十三日居る地を考へ病を快

一名

同日二十七日居る地を考へ病を快

一名

同日二十九日居る地を考へ病を快

一名

十月二日山子に考へ病を快

一名

同日六日居る地を考へ病を快

一名

神奈川縣

總計六名

内

全快一名  
死亡四名  
治療中一名

健康保安局書記官

スチユアルト、エルドリッヂ

記名

紙信着年十治明

電信掛 岡田	着局		発局		第百十三号	友報
	十月十八日	外務省	第百七十七号	十月十八日		
午後五時五分		字數四十九字		至		外務省
				自		神楽のあ
		スルモノジウミンナリ				
		マデコレラビヤウニカカリシ				
		ジヨリチナジクゴゴジウニシ				
		サクジウシチニチゴゼンシヨ				

サキヤウシヨ



明治十年着信紙

電信掛 岡田	着局			發局			官報 至
	午後三時十分	十月十九日	外務省	第百七十八号	十月十九日	横濱局	
				至			
				外務省			
				回中			
				自			
				神奈川縣			
				サクジウハチニチゴゼンシ			
				ヨジヨリチナジクゴゴジウ			
				ニジマデコレラビヤウニカカ			
				リシスルモノジウゴミンナ			
				リ			

ナカノリ

明治十年送達紙

技術	局	着	局	發	報	通	ル	ス
檜	日	局	字	分	日	局	號	報
	十月	廿	九	九	十月	廿	九	九
				時				

スベテ電信ヲ頼ミ出ルモノハ通信規則ノ通り心得ヘキ事

サウシウクニナゴゼン  
 シヨシヨリヲチシクゴ  
 ゴシウニシマテコレモ  
 ヨウニカカリシスルモ  
 シウゴニナリ

外務省  
 出  
 神谷川

十月廿九日



明治十一年九月

送

着

局

第

十

字

十

月

スベテ電信ノ類ニ出ルモノハ通信規則ノ通り心得ヘキ事

第百十六號

十月九日

午後十二時四十五分

第百十號

十月九日

技術 比田

明治十一年九月  
送 着 局 第 十 字 十 月 日

スベテ電信ノ類ニ出ルモノハ通信規則ノ通り心得ヘキ事

外務省  
申  
御念及

サクハツカゴセニヨシ  
ヨリゴゴウニマテコレ  
ヒヤウニカカリシスルモノ  
ニシウイキニナリ

明治十一年九月  
送 着 局 第 十 字 十 月 日

丁未年七月

五月十九日  
本月十九日午時申酉  
席列刺痛感深并令瘡  
列成之通也

明治十年十月三日  
大藏總司官

外務大書記官

平

席列刺病患者總數八拾六人

全癒<sup>内</sup> 二人

死亡 四拾三人

現在患者 四拾壹人

紙信着年 → 治明

電信掛 岡田	着局		發局		第 九 十 号	第 百 四 号	外務省	十月廿三日	午後五時五分	字數 五 十 字	杉 後 局	至	報
	十月廿三日	午後五時五分	十月廿三日	午後五時五分									
<p>至</p> <p>おのれ者</p> <p>サクニジウニニチゴゼシシヨ ジヨリチナジクゴゴジウニジ ゴデコシラビヤウニカカリ ニスんモノジウニニナリ</p> <p>自</p> <p>おのれ者</p>													

紙信着年 十 治明

電信掛 岡田	着局		發局		第 百 一 十 号	第 百 四 号	外務省	十月廿二日	午後一時五分	字數 五 十 字	杉 後 局	至	報
	十月廿二日	午後一時五分	十月廿二日	午後一時五分									
<p>至</p> <p>おのれ者</p> <p>サクニジウイニチゴゼシ シヨジヨリチナジクゴゴ シウニジゴデコシラビヤウ ニカカリニスんモノニシウ ロクニシナリ</p> <p>自</p> <p>おのれ者</p>													

換布百部控六年  
和國領地列利福患者表在在  
當港居留地列利福館之於之  
者之員數報告書先般及在達之於

十年一月 日本

寫濟  
騰島濟

所不為也

和(國)館角(利) 為患名表

和(國)館

香島港居る地(國)館之在り居る(利)為患名表  
此の地は和(國)館之在り居る(利)為患名表  
又和(國)館之在り居る(利)為患名表  
和(國)館之在り居る(利)為患名表  
和(國)館之在り居る(利)為患名表

和(國)館

和(國)館



和(國)館

和(國)館

神奈川縣

別紙

有十三日 皇國船三行 係新洲 病多病公  
 重初三行 弟時以 係中 三三三  
 同日 高百 重人 在留地 三行 病多病公  
 是レ 亦以 係中 三三三  
 同日 三三三 英國 船三行 病多病公  
 三三三 三三三  
 三三三 三三三

神奈川縣

丁年より 蘇本

より... 蘇本

外 蘇本

夢...

全一 蘇本  
張七  
現在書云




校了

乙第九十七號

府 縣

虎列刺病流行之節豫防救治ニ係ル入費ハ非常臨時  
費トシテ可下渡候條費途之概目左記ニ照準可取計  
尤費目外事實不得止慮有之候ハ、稟議ノ上詮議可  
及儀モ可有之此旨相達候事

但該費ハ豫備金ヲ以操替置追テ病毒消滅之期ニ  
至リ候ハ、明治八年太政官茅四拾九号并九年當  
省乙第九拾貳号達ニ參照シ諸牒簿詳細調整受取方  
可伺出事

明治十年十月廿四日

内務卿大久保通利

茅字第

外務省

- 一貧困者救濟ニ係ル消毒藥并治療藥價其他諸費
- 一臨時雇檢疫委員并ニ醫師給料及旅費日當
- 一一般健康ニ関スル市街路傍ノ便所并ニ芥棄場等  
ニ用ニル消毒防臭藥ノ費用
- 一貧困者虎列刺病ニ罹リ其病毒ニ感染シタル衣服  
器具焼却スヘキ分相當代價ニテ買上費
- 一貧困遺骸火葬并埋葬ニ係ル諸費
- 一病者病屍並ニ其排泄物等ヲ運搬スル器具費用
- 一臨時埋葬地所取設ニ係ル諸費
- 一虎列刺病者ノ排泄物並ニ病毒ニ汚染シタル物品  
ヲ運搬スル費用并ニ其燒棄場埋没場取設費
- 一出入港船舶檢査並ニ其豫防ニ関スル消毒藥諸費  
但船中ニ消毒法ヲ施ス入費ハ船主ノ自費タル

一 避病院ノ建設費  
 借家并ニ之ノニ屬スル諸器械代價  
 一 避病院ニ屬スル諸雇看護人給料諸雜費

外務省

56

校了

印 齋島大輔

印 田辺大書記官  
官田少書記官

明治十年十月廿九日到

一在香港領事館來信第廿五號之内

去月十九日虎狼痢疫之義ニ付電信を以テ當港  
小於テ同疫流行有之ヤ濟尋問ニ付即チ同日濟  
回答小及如ク幸子當地小於多未夕一人以  
同病小相罹至多者多之且又廣東地方小於多  
同様平寧更小警戒預防之沙汰義ニ不申勿論當  
港之義チ我開港場小通航繁劇之地小ハハ若  
一患者多ク同症ト義至多第早速濟電報  
可任ト心掛罷在ク

明治十年十月廿日

副領事 安藤太郎

外務大輔 齋島尚信殿

外務省

第千九号

編者附言

此号  
在香港領事館  
雜事  
中  
有

紙信着年十治明

電信掛 岡田	局着		局發		第 百 八 十 五 号	官 報
	十月廿四日	外務省	十月廿四日	横濱局		
午後五時廿分	午後五時三十分	字數 五十字	字數	第百八十五号	外務省	至 外務省 自 神奈川縣
<p>サクニジウサレニキ ヨジヨリ ニジマテ シスんモノ ゴゼンシ コシラピヤウニカカリ ゴゼンシ ゴゴジタ カカリ</p>						

十時三十分

紙信着年十治明

電信掛 岡田	局着		局發		第 百 八 十 八 号	官 報
	十月廿五日	外務省	十月廿五日	横濱局		
午後五時三十分	午後五時三十分	字數	字數	第百八十八号	外務省	至 外務省 自 神奈川縣
<p>サクニジウヨツカ ヨリ ゴゴジウニジマ カカリ ルモノクニシナリ</p>						

十時三十分



辨別病者後數拾九人  
全癒<sup>内</sup> 七人  
死亡 拾九人  
現在患者 三拾三人

紙信着年 → 治明

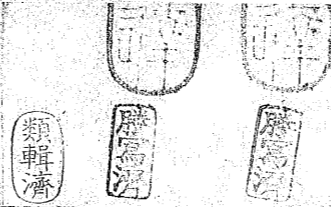
電信掛 岡田	着局		發局		第 百 九 十 号	官報
	十月廿七日	外務省	十月廿七日	外務省		
午後三時	分	第百九十号	字數五十二字	午後三時四十分	字數五十二字	至
外務省				神奈川縣		
サクニジウロクニチゴゼン レヨジヨリチナジクゴゴジウニ ジマテコレラビヤウニカカリシ スルモノジウロクニナリ						

十月廿七日

紙信着年 + 治明

電信掛 岡田	着局		發局		第 百 九 十 号	官報
	十月廿六日	外務省	十月廿六日	外務省		
午後二時	五分	第百九十号	字數五十字	午後三時四十分	字數五十字	至
外務省				神奈川縣		
サクニジウゴニチゴゼンミヨ ジヨリチナジクゴゴジウニジ マテコレラビヤウニカカリシ スルモノジウロクニナリ						

十月廿六日



朱

十年三月廿九日

大臣

権中

外務省

第111号

越

ら

り

十年

外務省



紙信着年十治明

電信 掛 岡 田	局	着	局	發	官 報
	午 三 時 分	十 月 廿 九 日	外 務 省	第 百 九 十 二 号	
		字 數 五 十 字	午 五 時 五 分	十 月 廿 九 日	至
カクニジウハチニチゴゼン シヨジヨリヲナジクゴゴジウ ニチゴゴコロシウビヤウコカリ エスんモノハチニシナリ					自
					あ の 後 者 の 中 へ 神 事 の お

紙送送年十治明

技術 佐 三 棟	局	着	局	發	外 務 省
	十 月 廿 九 日	第 百 九 十 二 号	第 九 十 八 号	第 百 九 十 二 号	
		字 數 五 十 字	午 五 時 五 分	十 月 廿 九 日	出
サクニジウシチニチゴ ゼンシヨジヨリヲチゴ クゴゴコロシウニシマテコ レラヒヤウニカカリシ スルモノシウクニシナリ					神 事 の お

スベテ電信ヲ頼ミ出ルモノハ通信規則ノ通り心得ヘキ事

十月廿九日 神事

類輯濟

書寫濟



1453001

十年十一月 神代

書信の事

⑤

申す所は多し

高野の形勢

電報の心

書面

十年

十一月九日

外務省

十月十九日 奉

五月廿七日  
本月廿三日ヨリ廿八日迄東京府の於テ  
序別刺痛感集并全愈死亡ノ身数  
別紙ニ述ル事ハ其段及リ申上ル也

明治十年十月十九日

敬言親存署

東  
署  
親  
存

外務省ノ申

十月十九日 奉

序列刺病患者徳教百九人  
 全愈<sup>内</sup> 八人  
 死亡 三拾二人  
 現在患者 三拾九人

十月十日

五ノ子  
律  
多  
加

外  
本

本  
署  
東  
京  
視



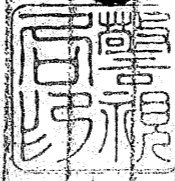
十月十日

告

五ノ第式百群  
去月三十日ヨリ本月一日迄東  
北ノ控テ虎列刺病感係  
之負數別係  
候也  
三通  
及  
全治  
及  
通

明治三十一年十月十日

警視局



外務省 御中

明治三十一年十月十日







系列刺病患者總數六十八

全癒

十三人

死亡

二十人

現在患者

二十八人

十月十一日

朱

五ノ初ニヨリテヨリ  
本月廿六日付東宮府下ニ於テ弟別利  
宿感梁并ニ各念慮成ニテ若別神ノ色  
々此候及出御知ク也

明治十一年十月十一日 東京東宮府下  
本署

外子方御座  
ウキ

明治十一年十月十一日



下付  
本

第百廿二号

本月七日ヨリ、日マ子東京府ニ於テ  
虎列刺病感染者全治死亡セ  
員數別紙之通ニテ条以段以通  
知及ニ後也

明治十一年十一月九日

東京警視本署  
東京警視署

外務省文書記官

中

序列病患者物心数二十五人

内  
全治

六人

死

七人

現在患者 十二人

傳  
元

品

席別刺病福防之為之内外國船之別ナラ當  
新鴻港ノ入津之船船檢査ニテ後想見書  
別紙之通函設去九月下旬當港在留領事  
施リ之及思合之及福之國領事之別  
紙之通函設之四各各之英國領事之四各  
書之通函設之四各各之英國領事之四各  
口領事之通函設之四各各之英國領事之四各  
有セズ編之通函設之四各各之英國領事之四各

十  
子

類

岩

3-2572

0264

三傳  
の  
後  
天

席別刺病縁防<sub>レ</sub>為<sub>レ</sub>内<sub>レ</sub>外<sub>レ</sub>國<sub>レ</sub>船<sub>レ</sub>  
新<sub>レ</sub>鴻<sub>レ</sub>港<sub>レ</sub>入<sub>レ</sub>津<sub>レ</sub>船<sub>レ</sub>船<sub>レ</sub>檢<sub>レ</sub>査<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>權<sub>レ</sub>  
別<sub>レ</sub>紙<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>西<sub>レ</sub>設<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>九<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>下<sub>レ</sub>旬<sub>レ</sub>也  
施<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>義<sub>レ</sub>及<sub>レ</sub>思<sub>レ</sub>合<sub>レ</sub>ま<sub>レ</sub>交<sub>レ</sub>獨<sub>レ</sub>己<sub>レ</sub>國  
政<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>商<sub>レ</sub>通<sub>レ</sub>四<sub>レ</sub>各<sub>レ</sub>方<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>華<sub>レ</sub>國  
世<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>三<sub>レ</sub>身<sub>レ</sub>去<sub>レ</sub>月<sub>レ</sub>廿<sub>レ</sub>四<sub>レ</sub>日<sub>レ</sub>申<sub>レ</sub>負<sub>レ</sub>其<sub>レ</sub>意<sub>レ</sub>  
口<sub>レ</sub>願<sub>レ</sub>事<sub>レ</sub>於<sub>レ</sub>之<sub>レ</sub>古<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>規<sub>レ</sub>以<sub>レ</sub>名<sub>レ</sub>也  
有<sub>レ</sub>七<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>獨<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>回<sub>レ</sub>國<sub>レ</sub>公<sub>レ</sub>使<sub>レ</sub>の<sub>レ</sub>設<sub>レ</sub>定<sub>レ</sub>上

3-2572

0265